# あ　い　さ　つ

中・四国小学校体育連盟
山口県小学校体育連盟
会　長　西　川　孝　文

昭和38年の高知県から始まったこの研究大会は，今回で60回を数え，ここまで中・四国各県の体育科授業の質の向上に大きな役割を果たしてきました。コロナ禍で迎えた令和２年度広島大会，令和３年度高知大会は，開催県や会場校の熱い想いのもと，誌上発表や参加者の制限など考え得る精一杯の工夫をすることで，大会を紡いでまいりました。そして３年ぶりに各県から会員が参集する形で山口大会を開催できましたことは，誠に意義深く，研究の灯を絶やすことなくつないでくださった先催県のおかげであると感謝しています。

さて，山口県小学校体育連盟では，「よりよいスポーツライフを志向する体育科学習～子どもの『振り返り』の意識を手がかりにして課題解決の質を高める～」を主題に掲げ，会場校を中心に研究を進めてまいりました。その成果は，11の公開授業において，子どもたちの「運動の良さを自分のものとしていこうとする姿」や「健康課題を正しくとらえ，解決に向けて取り組んでいこうとする姿」に現れていたように思います。

また，領域別の分科会では，各県の長年の取り組みの成果が発表されるとともに，参加者による活発な協議が展開され，研究を深めることができました。

さらに講演では，光市出身の名古屋グランパスエイト代表取締役社長　小西工己　様に，学校体育とは異なる視点からスポーツの魅力や可能性，そしてスポーツとの関わり方についてご指導いただき，我々の視野を広げていただきました。

長きにわたり中・四国小学校体育連盟を牽引してこられ，令和４年８月７日に逝去された最高顧問　成田十次郎　先生がご生前，「これからの50年を見据えて活動していかなければならない。」というお話をされていました。本大会が，中・四国の体育科教育の新たな50年に向かって，研究の灯を一層輝かせる一因となっていれば幸甚です。

熱心に研究にお取り組みいただいた会場校の先生方，提案発表や指導助言をしてくださった先生方，ご講演をいただいた小西様にあらためてお礼を申し上げますとともに，ご参会の皆様からいただいたご示唆を，今後の研究に生かしてまいる所存です。

私見になりますが，この研究大会は教職員の人材育成という点でも，大きな役割を果たしていると考えています。過去の山口大会では，授業公開を行った者をはじめ大会に関わった者達が，その後，体育科の研究推進の中核を担ってきました。今回の大会においても，会場校の教職員，そして研究や運営に携わり力を蓄えた者が，今後，必ずや県内各地で力を発揮してくれるものと期待しています。

最後に，コロナ禍の大会開催にご指導とご理解・ご協力を賜りましたスポーツ庁，山口県教育委員会，光市教育委員会をはじめ各市町教育委員会，各県小学校体育連盟，会場校の光市立浅江小学校，光市立島田小学校の関係各位に深甚なる感謝を申し上げます。

また，本年11月に開催される第61回鳥取大会に研究の灯をつないでいくとともに，大会の成功を祈念して，お礼のごあいさつとさせていただきます。

# 第60回中・四国小学校体育研究大会（山口大会）

山口大会におけるアンケートの記入に御協力いただきまして、ありがとうございました。
中・四国小学校体育連盟では、皆様からの御意見、御感想を生かし、実際の教育現場に役立つ研究大会を目指しています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

大会主題について

「振り返りの意識を手がかりに」という文言から、子どもたちの主体性や思いを大切にしようとしていることを感じた。大会主題、副題に迫った授業、子どもたちの姿を見ることができた。

大会運営について

コロナ禍で３年ぶりの本格開催ということで、感染症対策（消毒や３密を回避する取組みと呼びかけ）も万全で安心できるものであった。

公開授業及び授業協議について

○　友達との温かい関わりの中で、技に一生懸命に取り組む子供の姿が見られた。体育学習を通して学級や子どもたちが育っていることが子どもたちの言動から伝わってきた。

○　様々な場の準備、子どもたちの興味をかき立てるような掲示物や、映像資料などからこの単元にかける意気込みが伝わってきた。

○　児童の意識を大切に繋いでいる実践だった。それは授業者が授業を通して育てたい力を明確にし、その力が発揮された状態を具体的に考えていたからだと感じた。

○　自分の運動への取り組み方について見える化していくことは、今後も重要になってくると感じた。ICT も絡めて実践を深めていきたい。

○　授業協議では、授業内容についてはもちろん、評価や系統的な指導についても話題となり、大変参考になった。

○　器械運動領域については、他領域にも増してより高度な運動技能獲得のために、アナロゴンを重視した類似運動を重ねることが大切であることを再確認することができた。

分科会について

○　県外、県内どちらの発表も、全体で連携をとって研究を進められていた点に感銘を受けた。こういう取組こそ底上げにつながる素晴らしい研究だと感じた。

○　質疑応答の内容から、参会者はコロナ禍であることや、体育と競技力の関わりなどについて関心が高いことを感じた。

○　前時の振り返りを本時の課題設定等に活かすことの大切さを学んだ。

○　アプローチの違う２つの実践を立て続けに聞くことができたのは、大変勉強になった。それぞれの県の切り口を大切にしていきながら、本県でもまた違ったアプローチで考えていきたいと思えた。

○　中・四国各県で取り組んでいる先生方の考えを聞くことができ、視野が広がり勉強になった。

「わたしたちの体育」のデジタル化について

○　手本動画、ポイントのイラスト、場づくりの例などを保存してオフラインでも使えるとありがたい。

○　若い先生や、体育が苦手な先生にとっては技能に関するポイントよりも授業イメージや、場の設定を理解できることが大切なのではないかと思う。

○　各運動領域のイラスト図に合わせて、模範試技の動画のQRコードを配置することが必要だと思う。

○　自分の記録や感想などを、ポートフォリオのように蓄積していけるようなものがあると、より充実していく。

○　授業ですぐ使えるワークシートのデータがあるとありがたい。(中・四国各県の実践をモチーフにしたもの)

参加人数について

| 山口 | 鳥取 | 愛媛 | 島根 | 香川 | 岡山 | 徳島 | 広島 | 高知 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 245 | 23 | 23 | 15 | 18 | 31 | 29 | 17 | 9 | 410 |